

2022 OLED部品素材レポート RESEARCH

Chief Analyst
Dr. Choong Hoon YI

Analyst
Dae Jeong YOON
Jun Ho KIM





1.	コアサマリー	3		_EDパネルメーカーの ! 1 パネルメーカー別ラ	量産キャパ分析と展望 イン現況	83
2.	OLED産業イシュー分析	6	5.2	2 年間全基板面積の見	通し	
	2.1 中国素材の国産化動向		5.3	3 小型OLED年間基板面	面積の見通し	
	2.2 IT向けライン投資の現状と見通し		5.4	4 中大型OLED年間基本	仮面積の見通し	
	2.3 中国パネルメーカーのiPhone用パネル量産動向					
	2.4 QD-OLED追加投資の可能性		6. OL	-ED出荷量の見通し	1	03
	2.5サムスンディスプレイRigid OLED出荷量の低下		_	1 OLED総出荷量		
	2.6 Micro OLED関連開発動向		6.2	2 アプリケーション製	品別出荷量	
	2.6 MICO OLEDI與建開光動向		6.3	3 スマートフォン用Ol	LED出荷量	
			6.4	4 TV用OLED出荷量		
3.	フォルダブル機器用部品素材開発と産業現況	21	6.5	5 Tablet PC用OLED出	荷量	
	3.1 フォルダブルフォン発売動向	RE		##D#4+488#	_	
	3.2 フォルダブル機器開発動向			7		.11
	3.3 パネルメーカー別フォルダブルOLED事業と展示動向			1 概要		
	3.4 Ultra Thin Glass			2 全市場		
	3.5 Colorless PI			3 基板		
	3.5 Coloriess PI			4 TFT		
				5 Encapsulation		
4.	OLEDの主な開発状況分析	67		6 タッチセンサー		
	4.1 Under Panel Camera			7偏光板		
	4.2 Pol-less			8 Adhesive		
	4.3 低誘電率材料			9 カバーウィンドウ		
	4.4 光取り出し効率改善材料		7.3	10 Driver IC & COF		
			7.3	11 複合シート		
			7.	12 プロセス用フィル/	<u>'</u>	

2. OLED産業イシュー分析

2.2 IT向けライン投資の現状と見通し

企業別IT向けライン投資見積もり

Company	Line		Gen	Capacity (K/month)	Substrate	TFT	OLED Method	Possibility	Note	
SDC	-	-	8.5G							
LGD	E-6	Phase 3	6G ½							
LOD	E-6	Phase 4	6G ½							
BOE	B12	Phase 3	6G ½		10		ADO			
BOE	B16	-	8.6G ½ or ¼				ARE			
сѕот	Т8	-	8G							
Tianma	Xiamen	Phase 2	6G ½							
Wieleman	V3	-	6G ½							
Visionox	V4	-	8.6G ½							

3. フォルダブル機器用部品素材開発と産業現況

3.3 パネルメーカー別フォルダブルOLED事業と展示動向

▼ サムスンディスプレイ

- サムスン電子で発売する「Galaxy Z Fold4」は前作の 「Galaxy Z Fold3」と同じだと予想される。
- カバーウインドウは30µm厚の極薄グラス(UTG)がそのまま使用され、上部と下部に保護フィルムが貼り付けられる予定である。 パネルの厚さを減らすために*****することが予想されたが、*****されるものと見られる。
- Galaxy Z Fold4にも前作と同様に***技術が適用される予定だ。
- 基板の下部保護フィルムには、****が使用される。
- Galaxy Z Fold4 に も electro-magnetic resonance(EMR)方式のペンが適用される予定で、前作と同様にデジタイザ2枚が左右に配置されるものと見られる。
- *****がなくなり、新規素材に置き換えられるという 話があったが、最終的には***がそのまま採用される 予定だ。

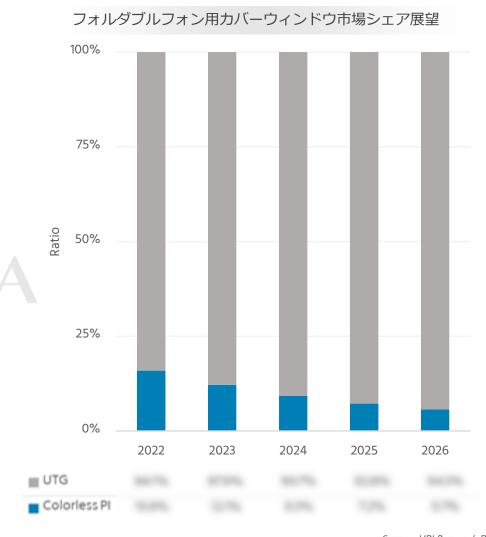
「Galaxy Z Fold4」用のフォルダブルOLED



3. フォルダブル機器用部品素材開発と産業現況

3.5 Colorless PI

- フォルダブルOLED用カバーウィンドウ市場はUTGが主導しており、 colorless PIが一部使用されているが、今後の需要は多くないとみられる。
- フォルダブルOLED市場を主導しているサムスンディスプレイはUTGだけでパネルを量産しており、サムスン電子もUTGのみをフォルダブルフォンに適用している。
- サムスンディスプレイは今後もUTGでフォルダブルOLEDを開発する見込みだ。スライダブルOLEDにはcolorless PIを使用することができるが、SID 2022でSamsung Displayは量産する場合はUTGを使用すると明らかにした。
- 中国パネルメーカーがcolorless PIでフォルダブルOLEDを少量量産しているが、全体市場での割合は低く、中国パネルメーカーもUTGが適用されたフォルダブルOLEDを開発しているため、フォルダブルフォン用にcolorless PIの市場シェアは低いだろう。
- フォルダブルIT機器用にcolorless PIが使用されることもあるが、数量 と適用スケジュールが未知数であり、量産になっても全体のフォルダブ ルOLED市場で大きなシェアを占めることはできないだろう。



4. OLEDの主な開発状況分析

4.2 Pol-less

- ▼ サムスンディスプレイ
 - 2025年には、***を***工程の代わりに****工程を導入し、フォト工程をさらに1回減らすことが予想される。
 - この場合、フォトプロセスは***と***に合計**回適用される予定である。



5. OLEDパネルメーカーの量産キャパ分析と展望

5.1 パネルメーカー別ライン現況

■ BOE B7

- B7ラインのモバイル機器の顧客メーカーは***と***、***で、スマートウォッチの顧客メーカーは***と***などがある。
- ***と***、***、***など様々な技術適用を試みている。
- Ph-3に**K LTPOキャパを保有しており、2022年に**Kまで増設する予定。
- 2022年上半期のB7の月平均稼働率は**%と分析された。

2022年上半期BOE B7の月別稼働率

	Jan.	Feb.	Mar.	Apr.	May	Jun.	Average
Operating Ratio	316	196				100	
						G.	UDID 1D

■ BOE B11

- B11ラインでモバイル機器の顧客メーカーは***と***、***、***などがある。
- AppleのiPhone 13用パネルが2021年10月末から量産され始め、iPhone 14用6.1インチLTPSモデルの量産を準備している。
- **K LTPOキャパを持っており、2022年に**K増設する計画を持っている。
- 2022年上半期B11の月平均稼働率は**%と分析された。

2022年上半期BOE B11の月別稼働率

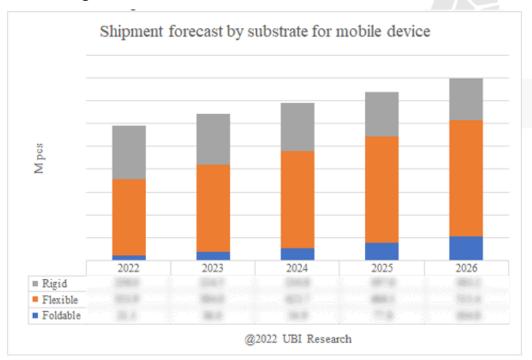
	Jan.	Feb.	Mar.	Apr.	May	Jun.	Average
Operating Ratio							

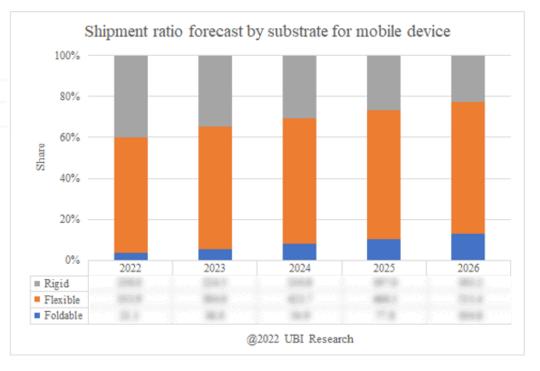
6. OLED出荷量の見通し

6.3 スマートフォン用OLED出荷量

■ 基板別

- 全スマートフォン用OLEDの出荷量をrigidとflexible, foldable基板に分類した。
- 2022年のフレキシブルOLEDの出荷量は***億台と見込まれ、年平均11%の成長率で、2026年には***億台が出荷されると予想される。
- Foldable OLEDの2022年の予想出荷量は****万台で、年平均49%の成長率で、2026年には**億台の市場を形成すると見込まれる。
- Rigid OLEDの出荷量は継続的に下落し、2022年には***億台、2026年には***億台が出荷されると予想される。







Chief Analyst

Dr. Choong Hoon YI

Analyst

Dae Jeong YOON

Jun Ho KIM